

8月16日（金）行った市長と政策秘書課職員との懇談の場での話について紹介します。

水の大切さをもう一度、考えてみませんか

私は、今年6月から、豊明市、日進市、みよし市、東郷町、長久手市に上水道の供給を行っている「愛知中部水道企業団」の企業長に就任しました。

先日、愛知中部水道企業団から、私たちの飲料水の水源地である長野県木曽郡のダム等を視察する機会がありました。

水源地である木曽郡には、木曽町、上松町、南木曽町、木祖村、王滝村、大桑村の6つ町村があります。6つの町村の合計面積は、約 1,500 k m²で約3万人が暮らしています。一方、愛知中部水道企業団管内の5市町の合計面積は約 130 k m²、人口は合計約 30 万人となっています。そして、私たちはこの水源地から年間約 3,200 万トンの水の恩恵を受けています。

視察の際、今、水源地の地域で困っていることは、間伐(※)に人手とお金がかかることだとお聞きしました。間伐をしていない山は、根が張り出したり、表土が流出したりして、山の保水機能が落ちてしまうそうです。

ひとたび大雨が降ると、山が崩れ、ひいては私たちに水が届かないということにもなりかねません。蛇口をひねれば、何不自由なく水が出る生活に慣れてしまい、水の大切さを忘れがちですが、人は水があって初めて暮らせるのです。私は、今回の視察を通して、今一度、水源地に思いを馳せ、水の大切さ、ありがたさについて考える必要があると感じました。



※間伐とは…健全な森林を保つため、成長に伴って混み過ぎた森林の立木を一部抜き伐りすること。

南木曽町へ行ってみませんか

さて、水源地のまちに遊びに行かれたことがある方も多いでしょう。仮にみなさんが、そこで暮らすことを考えるといかがでしょうか。一番は、「買い物 불편そう…」ということかもしれません。では、「スーパーがない」＝「買い物難民」かということ、彼らは、「自分たちで作っているから、食べ物には困らない」といいます。互いに作った作物を交換したり、売ったりしています。住民同士の

つながりがあるところでは、決して「人口減少¹⁰⁻¹＝悪いこと」ではないのです。

いつも私が話している人口が減少した 2050 年の日本社会を想像することは、なかなか難しいかもしれませんが、長久手から車で 2 時間ほど走った上流域のまちに、2050 年の日本社会の有り様があると私は思うのです。

長久手市は、長野県南木曾町と平成 18 年に交流自治体宣言を行い、平成こども塾から子どもたちが体験に行ったり、南木曾町内施設の利用優待制度を行ったりしています。

南木曾町では、毎年、勤労感謝の日の 11 月 23 日に「文化文政風俗絵巻之行列」が行われます。地元の方々が、木曾馬に乗った花嫁行列を中心に武士・浪人・飛脚・虚無僧などに扮して練り歩き、江戸時代の宿場の雰囲気再現するものです。



南木曾町観光協会ホームページより

ぜひ、今年の秋、南木曾町に足を運んでいただき、「文化文政風俗絵巻之行列」と紅葉を楽しみながら、何十年後かの日本、そして長久手市の有り様についても考えてみませんか。

●「文化文政風俗絵巻之行列」に関する問い合わせ

(財)妻籠を愛する会 風俗行列実行委員会 TEL0264-57-3513

<http://www.town.nagiso.nagano.jp/kankou/event/bunka.html>

～市長の話を聞いて～

私は将来、一人暮らし高齢者になる可能性が大です。買い物は、きっとネットスーパーが今より便利になって、それほど困らないと思いますが、学生時代の友達とは簡単に会えなくなるはず。するとやっぱり、地域でお茶をしながら話ができる知り合いがほしいと思うようになるでしょう。でも、今の私は、近所どころか市内には仕事関係以外の知り合いがほとんどいません。市長が提唱している「あいさつ運動」を近所でも心がけたところ、少しずつ、犬の散歩中の方などと話ができるようになりました。

「文化文政風俗絵巻之行列」は、私も 2 年前に一度、見に行きました。まさに江戸時代にタイムスリップです。紅葉も楽しめます。そこに暮らす方々が、自身も楽しんで行列に参加されています。南木曾町にある「妻籠宿」の食事処やお土産屋さんでは、お店の方との会話も楽しむことができます。秋のお出かけに、おすすめです。